

小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月15日（水）午後6時30分～午後8時

2 開催場所

藤山台小学校 体育館

3 参加者数 18名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	課長	前原 敦
		主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	湯浅 公
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

藤山台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（藤山台小学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 藤山台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 43 年度から令和 13 年度までの、藤山台小学校の児童数の推移は、昭和 55 年度の 1,840 人をピークに、令和 13 年度では 88.6%減少の 209 人と推計される。な

お、現在の藤山台小学校は、藤山台東小学校、西藤山台小学校との学校統合を行っているため、児童数は3校の合計人数を示している。

- ・藤山台小学校は、今年度、児童数 317 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度にはクラス替えができない学年がある「小規模」となり、令和 22 年度では全学年でクラス替えができない「過小規模」とであると推定される。
- ・藤山台中学校は、今年度、生徒数 190 人、6 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和 15 年度には「小規模」に、令和 16 年度からは「過小規模」となると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、藤山台小学校は、「賛成」の方の割合が保護者で 66.6%、地域の方で 86.9%となっている。

「反対」の方は、保護者で 6.7%、地域の方はいなかった。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多い。藤山台中学校区では、小学校、中学校ともに「賛成」の割合が高くなっている。

- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、藤山台小学校、藤山台中学校ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。

賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」や「集団活動における適応能力が磨かれるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。

- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

藤山台小学校では、回答された保護者の方の 98.3%が複数学級が望ましいと考えており、生徒は 95.9%が複数学級が望ましいと考えている。

藤山台中学校区では、小学校、中学校ともに複数学級を希望する割合がとて高くなっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「みんなで相談しながらいっしょに勉強できること」、また、「運動会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。地域の方は、「子どもたちの登下校」や「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」が重要と考えている。
- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子どもの人間関係に広がりがあること」や「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」が重要と考えている。地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れること」をととても多くの方が重要と考えている。
- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。藤山台小学校、藤山台中学校ともに、半数以上の方が「登下校に関すること」を心配と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料 6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、小中学校の 9 年間でクラス替えのない環境になることが推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、藤山台中学校区は岩成台中学校区、高森台中学校区と接しており、藤山台中学校は、直線距離で、岩成台中学校から約 0.9 km、高森台中学校から約 1.5 km の距離に位置している。また、過去に藤山台小学校、藤山台東小学校、西藤山台小学校の 3 校を統合し、藤山台小学校は、中学校区内の唯一の小学校となっている。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、藤山台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。
また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 藤山台中学校区は、「過小規模」となる小学校、中学校が1校ずつであり、それぞれ単独で適正規模の課題を解決することが困難であることから、藤山台中学校区と隣接する中学校区とあわせて検討する必要がある。
- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問1】

押沢台小学校の学級数も少ないが今回の対象には入っていないのか。

【事務局】

検討の対象です。

【質問2】

きめ細かな教育のためにも35人学級の基準で学校の適正規模を考えるのではなく、1学級あたりの人数を減らして考えればよいのではないのか。

【事務局】

本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学校1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員が配置されています。1学級あたりの人数を減らして学級数を増やしても、教員が不足するという問題が起きるため、難しいと考えています。

【質問3】

小中学校の適正な規模等に関する検討だけでなく、子どもの数を増やす施策は考えていないのか。

【事務局】

現在、ニュータウン創生課が中心となって、ニュータウンに関する施策に取り組んでいます。また、市では子育て支援にも力を入れており、こどもの家やなかよし教室の充実などの施策に取り組んでいますが、それ以上に少子化が進んでいる現状があります。ニュータウン施策と子どもたちの教育環境を充実させるということを同時並行で進めていきたいと考えています。

瀬戸市では、複数の学校を統合した「にじの丘学園」ができたことにより、人口が増えていることを聞いています。本市も人が集まるような魅力的な学校を皆様と一緒に作りたいと考えています。

【質問 4】

ニュータウン地区の人口増加について、ニュータウン創生課だけに任せるのではなく、教育委員会も考える必要があると思う。

【事務局】

ニュータウン創生課だけに任せるわけではなく、教育委員会としてもニュータウン施策の一つとして、魅力ある学校づくりを考えています。

【質問 5】

魅力ある学校という概念だけでなく、具体的なことを教えてほしい。

【事務局】

現時点では、皆様の意見を聞く段階と捉えており、「にじの丘学園」のような小中一貫校も、魅力的な学校をつくるための一つ的手段として考えています。今後、皆様と協議し一緒に考えていきたいと思っているので、今の段階で案を示すということは難しいです。

【質問 6】

藤山台中学校と藤山台小学校を小中一貫校のような形での運用はどうか。

【事務局】

藤山台中学校と藤山台小学校の児童生徒数推計では、小学校、中学校ともに1学年に1学級になると推計しています。本市は、各学年でクラス替えができる学校規模が必要という考えで取組を進めています。仮に小中一貫校にしても、クラス替えのできない学年があることから難しいと考えています。

【意見 7】

探究的な学びを通して個性を伸ばし、社会で活躍できる人材を育ててほしい。

【事務局】

藤山台小学校と藤山台中学校は ICT 教育を通して先進的な教育を実施しています。藤山台地区をモデルとして、他の地区の学校にも展開したいと考えています。

【質問 8】

統合となった際のスケジュールを教えてほしい。

【事務局】

現時点で統合ありきではないということをまずご理解いただきたいと思います。今後のスケジュールについては、今回、学校ごとの意見交換会で皆様から意見をいただき、次は藤山台中学校区全体で2回目の意見交換会の実施を考えています。

その後については、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成される協議会のようなものを立ち上げ、具体的な検討を進めていきたいと考えています。

仮に統合となった場合も、学校施設について、既存の学校を使う場合、リニューアルする場合、新しい校舎を建てる場合によって期間が異なります。大規模な工事や改修をするとなると、設計の期間と工事の期間を合わせ、5年程度の期間が必要になると考えています。

【質問 9】

過小規模校と適正規模校における人間関係や教育などの違いについて調査や検証はしているのか。

【事務局】

過小規模校を経験した先生からは、中学校に進級する際、急にクラス数が増えるため適応が難しい子どももいると聞いています。また、瀬戸市で実際に複式学級の担任を経験された先生からのお話では、環境変化に適応できるように中学校や人数の多い学校と交流し、学ぶ体験をする取組を行っているそうです。

調査や検証について、小規模校の児童一人ひとりの心の成長を把握していないので、先生の声を参考にしています。

【質問 10】

学校の先生方に意見を聞くことで、現場で何が困っているのかなど具体的に知ることができると思うので是非検討してほしい。

【事務局】

検討の対象となっている学校の先生からお話を聞いたりしています。これからも小規模、過小規模校の先生からの意見を聞き、皆様とも情報共有していきたいと考えています。

【質問 11】

小中学校の適正な規模等に関する検討はいつから始まったのか。また、いつまでを期限と考えているのか。

【事務局】

検討を始めたのは昨年度で、令和7年2月に、市の基本的な考え方をまとめて公表しています。

いつまでに実施するということは明確に定めていません。今回対象になっている中学校区については、今の児童生徒数の推計を見ると、中学校区全体として、小規模、過小規模になると推計しているので、市としては早く取り掛かりたいと考えて

います。ただ、市が独断で進めるのではなく、皆様と議論を重ねて、意見がまとまった地区から可能な限り早く着手したいと思います。

【質問 12】

藤山台小学校の校舎は比較的新しいが、学校の適正な規模等に関する検討が進んで、校舎が使用されなくなることはあるのか。

【事務局】

仮に統合となった場合、どこの校舎や学校用地を使うということは今後検討していきたいと考えています。藤山台小学校を引き続き使用するかどうかは、現時点ではお答えできませんが、新しく機能が充実している学校なので、有効活用する方法を考えなくてはならないと思います。

【質問 13】

過去に藤山台小学校が3校統合された際は、現在のような児童数推計になると予測できていなかったのか。

【事務局】

少子化の進行が予測以上に速く、現在の児童数になるとは想定できませんでした。

【質問 14】

越境通学を可能にしてほしい。実現できれば、他の市にはない春日井市の大きな特徴となると思う。また、不登校の子どものことを考えて、不登校の子供たちが集える場所を提供してほしい。

一番意見を出すことができる、保護者が意見交換会に来ていない。適正規模や適正配置などの言葉が難しく感じるため、わかりやすく表現をしてほしいと思う。

【事務局】

学校選択制について、通学区域の見直しなどは今回の適正規模の検討に合わせて慎重に考える必要があると思います。また、不登校の問題については、本市としても問題意識を持っており、適正規模の課題とは別にしっかりと検討を進めていきたいと考えています。

適正規模や適正配置などの言葉について、保護者の方にアンケートを取らせていただいたときは「魅力ある学校づくり」とさせていただきました。ご意見のとおり、適正規模や適正配置だとわかりにくい方も多いと思います。今後は、皆様が理解しやすいような表現を心掛けていきます。

【質問 15】

藤山台小学校、藤山台中学校は ICT 教育に力を入れているが、ICT だけでなく実際に字を書くことや、紙の教科書で勉強するなどの経験も必要だと思う。

【事務局】

一人一台端末が入ったタイミングで新型コロナウイルス感染症が流行したため、接触機会を減らしながら子どもの教育環境を守ることが大きくクローズアップされました。ICT を活用した教育だけでなく、自分で字を書いて紙の教科書を使うといった経験も大事だと思います。ICT と体験的な活動のどちらも必要であり、両立できるように取り組んでいきたいと思っています。

【質問 16】

春日井市で子どもの権利条例が作成されつつあるが、子どもの意見はどの程度反映されているのか。また、きめ細かな教育や通学距離について不満を持つ保護者の意見が資料には書かれていないので、反対と考えている人の理由が知りたい。

【事務局】

学校の適正な規模の検討を進めるにあたって、保護者の方に加えて、小学校 3 年生以上の子どもたちにも、学校を通じてアンケートを実施しました。本日の資料の中では一部抜粋という形でお示しさせていただいておりますが、詳しい内容は市ホームページに掲載しているのでそちらをご確認いただきたいと思います。

市が取組を進めるにあたり、保護者の方からの反対の意見として、「登下校の時間や距離に変化があること」と答えた方が反対の方のうちの 58.4%でした。また「環境変化による子どもへの影響があるから」と答えた方は 33.3%、「きめ細かな指導が受けられる可能性があるから」と答えた方は 8.3%でした。藤山台小学校で反対と答えた方の理由はこの 3 つでした。

【質問 17】

新聞で小牧市の篠岡地区で段階的に再編の検討が進んでいると知った。春日井市の隣に位置する小牧市も瀬戸市も、小中一貫校の検討が進んでいる。そういった話を聞くと、規模の小さい学校できめ細かな教育ができる環境も重要だと思う。他市の状況を春日井市はどのように捉えているのか。

【事務局】

小牧市や瀬戸市とは情報交換をしています。学校規模という観点からは、両市とも現状の学校規模が小さくなってきており、児童生徒数の推計から 1 学年 1 クラスになるという状況を踏まえ、統合という手段を使って一定の学校規模を確保しようと検討を進めており、本市と同じ方向性であると認識しています。

小中一貫校については現時点では明確なビジョンを持っていませんが、今後小中一貫校や義務教育学校のメリット、デメリットをお示ししながら、皆様と協議していきたいと考えています。

【質問 18】

子どもに藤山台小学校の適正な規模について話したら、1クラスになってクラス替えがなくなることを不安がっていたが、通学距離が長くなることも心配していた。通学の際、子どもの負担を減らせるような工夫を一緒に考えてほしい。

【事務局】

アンケートにおいて、保護者の半数以上が登下校に関することを心配していました。市としても子どもたちの負担が増えないようにするため、バスを含めた通学手段などの検討をする必要があると考えています。

【質問 19】

4月から5月にPTA役員への説明会があったということだが、その時にどのような意見があったか。

【事務局】

PTA役員への説明会では、「現状子どもの数は少ないが仲良くできている。人数が多くなると、先生の目が行き届かなくなりトラブルが発生することが不安。」との意見がありました。こちらについては、「子どもの数が多くなるということは、配置される教職員も増えるので、先生も意識して、十分に目が届くような体制を整えていきます。」とお答えしています。

また、「以前、藤山台小学校を統合した際、現在の人口減少を見据えていなかったのか。」との意見がありました。この意見には、「当時はここまでの減少を予測できていませんでした。」とお答えしています。

「藤山台地区の団地が今の時代のニーズに合っておらず、空き家だらけである。人口流入のような施策をURに働きかけてほしい。」や「藤山台小学校はICT教育に注力しているが、藤山台中学校はどうか。」といった意見もいただいています。

他にも、藤山台中学校について、「校舎やトイレが古いので改修工事をしてほしい。」など、中学校の環境を改善してほしいといった意見を多くいただきました。

【質問 20】

未就学児の保護者を多く加えて協議会を開催してほしい。

【事務局】

アンケートの際は、保育園や幼稚園に通っている未就学児の保護者にも協力していただきました。今後、協議会を設置する際にも未就学児の保護者に参加していただける体制を作っていきたいと考えています。

【質問 21】

各家庭が判断して好きな学校に通わせることができれば良いと思う。

また ICT 教育を春日井市は全面的に押し出しているが、体験的な学習をもっと増やして、特色ある学校をつくってほしい。

【事務局】

将来的にどのようにしていくか、現状で決定事項はありませんが、保護者や子どもが自身で学校を選び、満足して通うというのは1つの手段ではあると思います。ただ例えば、市の西部地区に住んでいる人が東部地区の学校を選んだ際に、市が子どもを学校まで連れていくといった対応は難しいので、通学に関する課題はありと考えられます。他にも、例えば藤山台小学校が家から近くても、人数が多いため入学することができないといった問題が起こることも考えられます。

学校選択制も貴重な意見としていただいて、地区の状況や課題を研究し、より良い教育環境を目指していきます。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・藤山台小学校と藤山台中学校での意見交換会の際にいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は藤山台中学校区全体の単位で、年内に2回目の意見交換会を開催したいと考えている。
- ・その後、藤山台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていききたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へは Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後8時 閉会